ESD カフェ（次期北九州アクションプラン検討ワークショップ）における参加者意見

2020 年 2 月 11 日及び 7 月 26 日に、会員 34 名が集まり、「北九州 ESD アクションプラン 2015～2019」についての振り返り及び次期アクションプラン策定に向けたワークショップ「ESD カフェ」を実施。

１　第１回ワークショップ

(1)日時：2020 年２月 11 日（火･祝日）　13 時～17 時
(2)参加者：ESD 協議会会員　34 名
(3)ファシリテーター：九州大学大学院准教授　加留部貴行氏
(4)場所：まなびとＥＳＤステーション
(5)内容：アクションプラン（2015 年～2019 年）の振り返り
・６つのテーマ
① 普及・啓発・発信（原賀運営委員、森川コーディネーター）
② 地域・ネットワークづくり（服部運営委員、渡辺運営委員、上永運営委員）
③ 学校教育（安田指導主事、三宅運営委員）
④ 企業（眞鍋運営委員長、佐藤運営委員）
⑤ 行政機関（垰谷課長、原口主任）
⑥ 北九州まなびと ESD ステーション・推進体制・事務局（髙橋事務局長、稲田係長）
に分かれ、リーダーによるこれまでの取組の説明

（１）これまでの取組に対する振り返り（良い点、課題の抽出）とメンバー各自による評価（５点満点）票の作成

テーマ	評価 （5 点満点）	5 年間の振り返り
普及・ 啓発・発 信	3.2	・HP・SNS の情報発信・更新が十分ではなかった ・ESD/SDGs の掲示をして視覚的に訴える必要がある ・ESD という言葉だけの周知でなく、目的・取組などの周知がもっとなされるべき ・幅広い世代と対面して語り合える場がほしい ・出前講座実施増やすべき
地域・ ネットワー クづくり	3.6	・市民センターでの拠点づくりが進められている ・ESD が広がっている意識が見られない ・市民センター内だけで完結させず、周りを巻き込んで広がっていく必要がある ・小学校、保護者、市民センター、まち協との連携による次世代の育成が必要 ・積極的に交流の場に参加して人脈を拡げていくことが今後はもっと大事
多様な教 育の場	3.1	・ユネスコスクールの広がりがまだまだ ・ESD/SDGs のついて教員の育成、研修は始まったばかり。意識が高いのでもっと普及していくのでは ・小学生に ESD/SDGs の言葉だけでなく、自然学習や生活に結び付いた学習が大事 ・教える立場が北九州の歴史（環境教育）をもっと知る必要がある
企業	3.3	・企業の SDGs の土壌は整いつつある ・もっと行動に移すべき ・企業には元々明確な目的があり、手段を目的化してしまってはいけない ・あらゆる場面で取組の周知が必要 ・企業が意図する意味を理解して取り組む必要がある
行政機関	2.6	・ESD/SDGs の役割・つながりを明確に ・行政主導でなく、市民主体へ ・職員が市民主催イベントに出向いて見直す機会を設ける ・行政組織での ESD の実践不足 ・行政職員への ESD/SDGs の意味・背景の研修が必要
拠点推進 体制・事 務局	2.7	・会員の活動をよく知ることが大前提 ・会員間のネットワーク作りが必要 ・国際的な活動である ESD を自覚 ・ステーション運営の見直しが必要 ・コーディネーターが中心となって活動

（２）　振り返りを踏まえ、今後に向けてメンバー自身や協議会が貢献できることを考える

テーマ	今後のためにできること
普及・ 啓発・発信	・協議会、会員の活動を知る ・ブランディング PJ の強化、増員 ・HP や SNS での情報発信・更新 ・広報紙・アニュアルレポートの活用、作成方法（読みたくなる紙面・文字・画像等）の検討 ・ポスターなどの視覚的に訴えるものの活用
地域・ ネットワークづくり	・市民センターに足を運び、情報交換を行う ・情報にアンテナを張る ・館長、地域の方々と話をして、つながりをつくる ・地域における市民センターを活かす活動をする ・様々な活動を知りあう ・大学との協働
学校教育	・教育においてどのような取組をしているかを知る ・小中高の ESD/SDGs のイベントに参加する ・教育においての取り組みに関心を持ち、何が課題かを考える ・ユネスコスクールに関心を持つ ・つながりを考える（教科のつながり、学校と地域のつながり、人と人とのつながり） ・教育できる立場になれるよう学び続ける ・教育を受ける立場から、伝える立場になることを意識する
企業	・優良事例を学ぶ ・企業の取組に興味を持ち、行動に移す ・企業と他のつながりの構築を考える ・大学や他と協働して取り組むことが成功につながる ・企業と協働することで何が成果か、何が課題かを考え、 それを企業と話し合うことで、次へとつなげていく。
行政機関	・市民が市の取組に興味を持つ ・自分が学び、そして声を発する機会、土壌を作ることを要求する ・おせっかいおばさんとして、忖度なしの行動をする ・SDGs を利用して ESD を伝える ・新しい活用法の検討
拠点推進体制・事務局	・自分の分野において役立つなら、協力したい ・よりよくするために何ができるかを考えてみる ・協議会のイベント等いろんなものに参加する ・多世代、他業種の会員ともっと話し、つながりの強化 ・学生などユースのサポート ・会員外の人への積極的な声掛け ・積極的な交流 ・会員の活動に出向き、参加し理解する

（３）最後に、今後の北九州の ESD の姿について意見交換

今後の北九州の ESD の姿（キーワード）	
行　動	自分事にする 知る（活動、ESD・SDGs の背景等） 広がりを持つ 情報共有を行う 持続可能な社会のために、みんなで1歩進める
姿　勢	笑顔 思いやり 調和 わくわく 問題意識 実体験 学ぶ 共有
つながり	異なる立場・分野の人との交流 知り合う 学ぶ機会がつながりとなる つながる場が必要
若　者	若者が積極的に活動し、学んだことを仕事に 継続的な活動 大人からの働きかけ
教　育	就業前のきっかけ・体験の増 子どもたちが地域を知る ユネスコスクール増
地域	ESD の活動場所へ 地域・学校等とセンターとのつながり増 一歩踏み出し、参加してみる
ESD・SDGs	ESD の経緯をもう一度見つめなおし、未来を考える 人づくりが ESD ESD・SDGs の理解を深め、共に推進
国際	RCE の重要性 世界とつながる
北九州	学びにあふれ、そして行動する人が育成できる街 笑顔であふれる北九州 北九州らしさが大事 北九州の ESD は市民活動から始まった 北九州ならではの ESD

１　第２回ワークショップ

（1）日時：2020 年７月 26 日（日）　13 時 30 分～１６時３０分

（2）参加者：ESD 協議会会員　36 名（うち３名オンライン参加）

（3）ファシリテーター：九州大学大学院准教授　加留部貴行氏

（4）場所：AIM 314・315 会議室

（5）内容：

１グループ３−４人で以下の内容について、ワークショップを実施

① ワールドカフェ：「コロナの状況下であなたが学んだことは何か」

② ワールドカフェ：「“with コロナ”の中で ESD はどうあるべきか」

③ 個人ワーク及び意見交換：「私が考えるこれからのアクション」

・５つのテーマ

共通事項（普及・啓発・発信）

地域・ネットワークづくり

多様な教育の場

ステークホルダー同士の連携

地域外との交流/若い世代との交流・連携

・４項目

指標「何がどのように動くと良いか」

時間軸「いつのタイミングで/いつがゴールか」

体制「誰が何をやるか」

自分事「私は何ができるのか」

（6）結果：

①コロナの状況下であなたが学んだことは何か
ワールドカフェでは以下のような意見が出た。 ■環境 ・自然災害(コロナ・地震・火山爆発・豪水など)の対策が必要 ・東京一局集中しないでよい　・オンライン、リモートで移動時間削減　・CO2 削減 ■生活 ・オンラインいつでも繋がる良さ　・人は変われる　・SNS でひろがった ・自分の常識と他人の常識との違い　・動ける人と動けない人の差が広がった ・コロナを通して自分と向き合う ■繋がり ・人と人のつながりが大切とわかった ・家族の絆 ・日常のありがたさ、あたり前のありがたさ ・地域の繋がりの大切さ ・パートナーシップが大切
②“with コロナ”の中で ESD はどうあるべきか
■情報の発信 ・ESD のかみくだいた PR(ESD を楽しく、分かりやすく)やオンライン発信など必要 ・SDGs・ESD という単語は広げにくいので、市民が既に実施している具体的な例を挙げる ・高齢者や子どもを置き去りにしない、サポートする ■SDGs と ESD との関係 ・SDGs と ESD は一緒に広げていく　SDGs と ESD はつなげて考える ■今後の取り組み ・中止するのではなく、何か変わりになるものを考える、工夫して行う ・コロナの状況を見ながら方法を変えていく ・協議会は今より自立して、さらに発展していきたい ・変化を生む人の育成、チャレンジができる場 ・プロジェクトの枠組みにとらわれない、新たなパートナーシップを築く ■交流 ・企業とユースをつなぐ ・ワークショップなどの交流を大事に ・他世代・他団体との交流・連携 ・お互いの状況を思いやる対話を

③ 私が考えるこれからのアクション

指標（何の数値がどのように動くといいか）	*時間軸（いつのタイミングで／いつゴールか*	*体制（誰が何をやるのか）*	*私は何ができるだろうか*
共通事項（普及・啓発・発信）			
啓発動画（チャンネル）を作り、発信する　視聴回数増加	半年 or1 年	・会員の取組を発信	・大学教員中心に声かけ ・学生にも呼び掛ける
・HP や SNS の閲覧件数増加 ・持続可能な社会への取組内容の理解度増	2020～2030	活動団体の積極的活動・広報・情報発信	・現在の事業の取組を知る ・広報などで取り上げる
地域・ネットワークづくり			
小学校・まちづくり協議会・市民センターとの交流・連携　増加	小学生へ向けて発信→のちに輪を広げる	小学校・まちづくり協議会・市民センター	・現状把握・情報収集 ・プレイヤーになる、参加する ・何をすべきか見つけ実行
商店街を活かした地域の活性化を考え、新卒者が北九州の企業への就職率増加	5年後	大学、ESD 協議会などが若者の地域のまちづくりに加わるようにする	・北九州について学生が学ぶ機会を設ける ・教員自身がもっと勉強する
多様な教育の場			
主体的に活動した経験のある学生が増える	今すぐ～2030 主体的な活動を起こせる人になる	・生徒が主体的に行動することが大切 ・先生、親は自主性を育てる教育が必要	・世代、国が異なる様々な人にふれ、刺激をうける ・そのような場に積極的に参加し、吸収する
・ボランティアの参加率増	・学校内であれば入学から卒業まで	・外部教師が実例紹介 ・実際に体験してみる ・子どもが話を聞く ・シュミレーションする	・ボランティアの参加 ・広報活動　・体験教室 ・身近な例に置き換える ・動物の森の SDGsバージョン
ステークホルダー同士の連携／地域外との交流			
会員向けアンケートを実施 ・各会員の活動　増加 ・会員同士交流　増加 ・会員間で協働事業　増加	月１回の会員交流を開催する（ワークショップ）	・会員は各団体メンバーを連れて交流会に参加 ・有志で小委員会結成	・アンケート用紙をつくる ・ワークショップを企画する
・ステークホルダー同士交流会増 ・海外・他 RCE との交流→満足度増、参加後の行動変容増	今から～アクションプラン終了後	・ESD 活動者は拡げる ・ESD を知らなかった人に参加してもらう	・情報収集・共有・発信 ・自らが学ぶ、楽しむ、ワクワク ・新しい交流を創造する

若い世代との交流・連携			
若者をインターン・体験者・企画サポーターとして受け入れる企業団体が増加	若い人が企業・就職・独立 参加した商品が開発される	・地域の働く場へ若い人が加わるための拠点づくりー協議会 ・広報・周知に協力	・大人が学生にプレゼンする（何をしたいか、何を伝える） ・大人と若者が知り合うだけでも豊かな学びになる
①ユース参加者（登録者）が増 ②ESD 活動への参加者数（率）増	①毎年ごと（ゴールはない） ②各活動に見直す	・会員が常に意識してユースを受け入れる ・企業へ教育の機会依頼	・学生、活動者登録メンバーリスト作成 ・プログラム作り支援